

炭素と塩素を含む物質変化とその応用

Material change of carbon- and chlorine-bearing states and its application

三浦 保範 [1]

Yasunori Miura[1]

[1] 山口大・理・地球科学

[1] Earth Sci., Yamaguchi Univ

本研究は、次のようにまとめられる。

- 1) 炭素と塩素の物質状態の変化をまとめてその特異性を循環の立場から検討した。
- 2) 塩素と炭素は3状態で安定な物質を示すので、循環には最適な元素(水素以外)である。
- 3) 火山岩中の炭素物質は形成されないと考えられていたが、最近山口県下関市の玄武岩から筆者が発見した。
- 4) 塩素含有物の赤金石は、その組織と隕石(仁保隕石・玖珂隕鉄)の熔融層で動的な反応で形成されたことを筆者らが発見した。
- 5) 衝撃変成作用で形成された急冷の炭素含有物と塩素含有赤金石は、これらの状態変化の例であると考えられる。
- 6) 赤金石結晶が常温で形成された組織とサイズは、動的な衝撃変成で形成された赤金石とは明確な違いを示す。